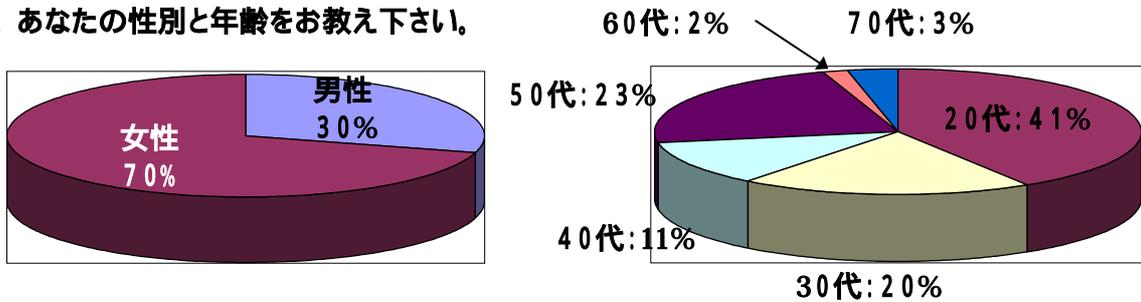


第5回東北大学男女共同参画シンポジウムでのアンケートの集計結果

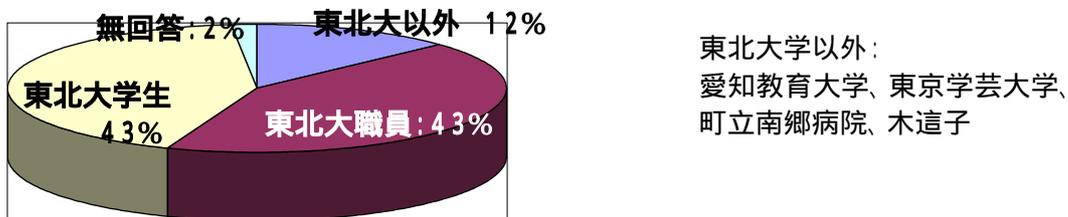
2006.12 男女共同参画委員会・広報WG

上記シンポジウムに参加された方々に、今後のシンポジウム開催の参考するために、シンポジウムの内容等に関してアンケートで伺った。参加者約140名のうち、61名の方から回答を頂いた。

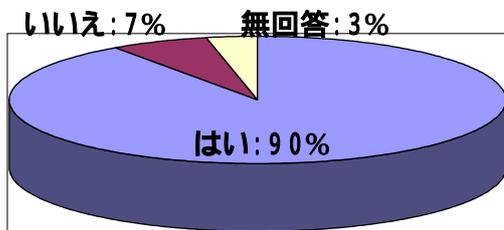
Q1. あなたの性別と年齢をお教え下さい。



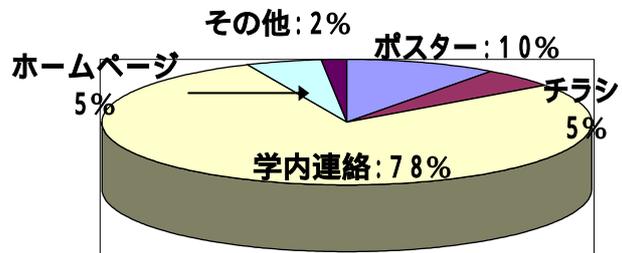
Q2. 職業と、もしよろしければ、会社名、職名等もお教え下さい。



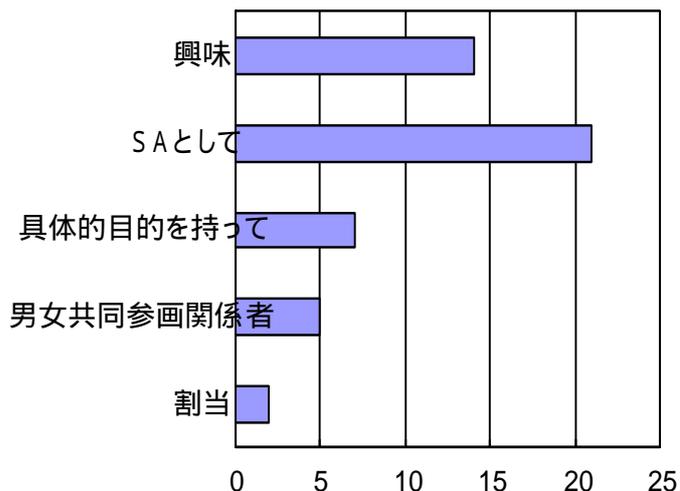
Q3. これまでに男女共同参画について何かご存知でしたか？



Q4. このシンポジウムのことをどこでお知りになりましたか。



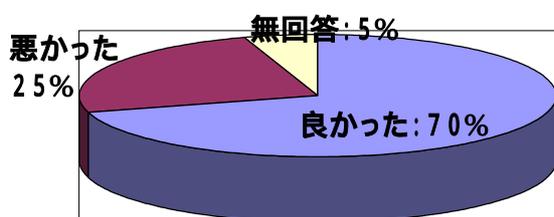
Q5. このシンポジウムに参加された動機は何ですか。



具体的目的の例:

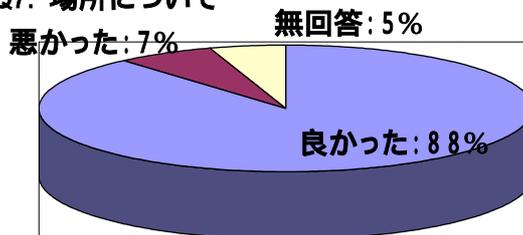
局長の話を知りたい; 女性の働き方について学ぶため; 東北大の取り組みを知るため; 大学にとって重要と考えるため; 科学技術政策でのジェンダーの扱いを知るため; 研究成果を知るため; 部局の重要課題と考えるため; 支援に具体策を知るため; 毎年参加

Q6. 日時について



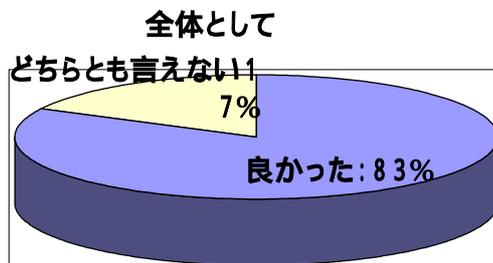
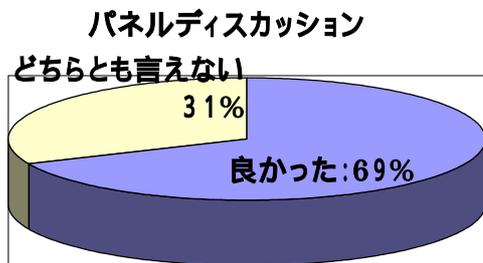
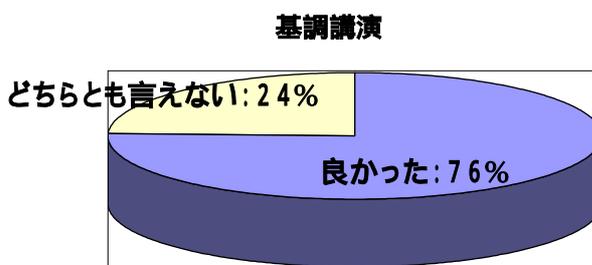
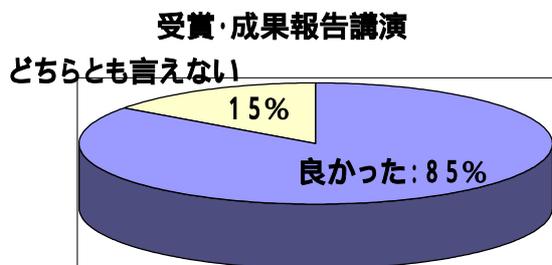
悪かった理由と希望 (平日希望、勤務時間帯、午後、9月、大学祭期間中)

Q7. 場所について



悪かった理由と希望 (学内施設、交通の便の良いところ)

Q8. シンポジウムの内容について



Q9. 内容についての感想(抜粋)

* 局長の基調講演、各大学の取り組み、いろいろと勉強させて頂きました。

- * パネルディスカッションで各大学の発表時間をもう少しコンパクトにし、討論の時間を十分とっていただきたかった。各大学の取り組み内容は充実しており、発表に値するものだが、簡潔にまとめた方が分かりやすく、よりアピール出来たであろう。
- * 普段なかなか聞くことが出来ない、貴重な話をたくさん聞けて良かった。また、自分がこの先活動していく上で、どのような施策があって、どう取り組んでいけば良いかという点で大変勉強になった。
- * パネルディスカッションが興味深く、これからの自分に有益だと思った。
- * SAとして参加しましたが、受賞講演、パネルディスカッション、基調講演を聞くことで、女性研究者の現状(Data等)と、取組の内容が具体的に理解できました。今後のSAとしての活動を行うに当たり、自分自身、目標と問題点を明確にするのに役立ちました。
- * 私共大学と比べますと、本日の内容は新鮮かつ参考となる施策として具体的に取り組む力強いメッセージをいただきました。ありがとうございました。
- * 現在大学院生として特別なハードルの存在を意識したことはありませんが、海老原先生の話など、今後自身の身に起こる可能性のあるハードルを知り、考えさせられました。しかし現状を知ること意識の改革、未来への期待や決意が喚起され、貴重な経験となったと思います。地域によって問題が違う(北大はカップル問題、京大はDVなど)ということも興味深いことでした。東北大でも東北大ならではの理工系への興味の喚起(SA制度の発足)など、特徴があればあるほど注目されるのだと思います。
- * 今回シンポジウムに参加させていただきましてありがとうございました。感動したことは日本で女性研究者のために政府と大学側が積極的にやっている姿が見えることです。近いうちに女性研究者数が増えること期待しています。
- * パネルディスカッションでもう少し各大学同士の議論が聞きたかった。
- * 全体として理科系の問題が中心だったが、文系の女性研究者もまだまだ少数派だと思われます。特に業績評価がわかりやすい理系よりも文系での問題も多くあると思うので、もう少し文系に対する配慮が欲しいと思います。
- * 男女共同参画について、様々な取組が行われていることが分かったが、実際に大学にて、実感することが少ないと思いました。今後期待します。
- * 局長の講演で、政府の方針が理解できました。男女共同社会をつくるには私たちの意識を高めていく必要があると実感した。
- * 今年度は具体的な取り組みが始まっていることが実感できた。今後は全学への周知が必要と思う。
- * 北大の若手研究者パートナー同居支援は女性研究者が結婚後も研究を続ける上でとても良い取り組みであると思う。局長が最後に指摘したように、女性だけでなく男性も含めて男女共同参画を考えていく必要がある。シンポジウムの参加者が男女半々になるぐらい大学内での人々の意識を高める必要がある。SAの役割は良いと思うが、「エンジェル」に女性だけが担うのではなく、男子学生も大学の男女共同参画に関わっていくようなとれ組が必要。
- * 分りやすくよかったです。
- * 多様な分野をカバーしており、内容的にも充実していた。最近の問題点とその原因、および取り組みについて大変勉強になった。
- * 大変参考になりました。来て良かったと思います。大学内のここの活動を参考により良い職場環境および働くシステムを整備する必要があると感じました。
- * 職場、家庭での男女共同参画の意義を再認識する重要性・必要性を強く感じました。
- * シンポジウムのタイトルがよくない。お役所的とでも言うか、大学の取り組みが具体的に伝わらない。「やります」的な印象。

Q10. 男女共同参画推進に関係したシンポジウムで、希望の企画(抜粋)

- * "研究者"を中心とした企画が多いが、大学のコア人材として研究者が重要であることは理解できるが、男女共同参画の観点からは、事務系やスタッフの企画も検討すべきではないか。
- * 「男女共同参画」というフレーズを掲げて自分たちの権利や要求を主張し始めた女性に対して、男性が**本当**はどのように考えているか?知りたい。
- * 実際に職員以下(ポスドクなど)の女性研究者と委員会側のディスカッション。
- * まず数字の上では少数の企業の女性研究者の業績、ご本人達が考える女性研究者のおける立場、企業でのニーズ等を語っていただきたい。
- * シンポジウムで日本におけるだけでなく、各国においてどんな風にやっているかのデータがないのでとても残念です。もちろん日本の事情についても重要ですが、他国の政策なども参考になるかもしれません。今後は是非お聞かせ下さい。
- * 企業での女性研究者の割合が少ないという事実を聞き、驚きました。そのため、企業での男女共同参画に対する考えなどを開催する機会、あるいはそれを聞くことの出来る場がともあってよいのではないかと思います。
- * 介護に関すること。
- * 取組の現状の紹介だけでなく、女性研究者や男女共同参加の現状に対する実証的な研究と対比させるような現状と対策の整合性を図るような企画があるとよいと思います。
- * ワークバランスについて。

- * 大学の男女共同参画を進めていく上で関連する小中高校や企業でのジェンダー教育、男女共同参画の取り組みと大学の男女共同参画。* 大学の男女共同参画と地方自治体(県政、市政)。* 学生から見た大学の男女共同参画。
- * 次回はぜひ教員の増加を達成した大学などの取り組み事例等を伺いたいです。(本学では18.10.1現在16%、2010までに20%達成を目指している。
- * 男性研究者が発言する場を増やしてください。男性の視点に勇気づけられました。
- * 北欧やヨーロッパ(フランスなど)で女性教授や女性社長とかが高いパーセンテージで活躍している例を取り上げ、それがなぜ達成されているか?日本との違いは何なのか、分析し、紹介するなどをしてみては如何でしょうか。
- * 男女共同参画に対する意識改革が本当に必要な人が参加していないのが問題。
- * 毎年参加した聴衆に、次年度もチラシのご送付を頂きたい。

Q11. 東北大学における男女共同参画推進、又は学問・教育におけるジェンダー問題についての意見(抜粋)

- * 本シンポジウムの存在は大変意義深いものでありますので、今後も継続していくべきかと思えます。* 卒業生で各方面において活躍されている方々とも本問題について関わればよいと思えます。
- * SAを始めてから本大学での取り組み等を知ったが、女子学生のネットワークという点から、理学部や機械系では独自にネットワークを持ち活動がなされていた。自分の研究科でも是非このようなネットワークが必要だと思うし、このような情報(共同参画や研究者支援の情報)を教員以下、院生全員にも行き届くような環境が必要だと思う。
- * 「女だから」という理由で不当な扱いを受けたことはあまりないので、私は周囲に恵まれているかなあ~と思えます。男女に限らず、個々人の得意分野に応じてチームとして研究生活が送れる環境が作ればよいと思えます。
- * 学部・研究科間で温度差がないよう教授陣からの本質的な理解・協力を得ることが必要だと思います。
- * 女子院生として、望むこととしては、教員(特に教授、助教授)の意識改革、(女子学生特有の悩みの理解等)です。数値目標(女性研究者20%)も大切ですが、現実的に女子学生が過ごしやすい研究環境を整えて頂きたいです。そうでなければ、SAとして母校への出張セミナー等で女子学生の理系への進学を積極的に勧められないと思えます。
- * SAとして、「サイエンス・エンジェル」の企画について意見を述べさせていただきます。この企画は女子中高生にとって「理系」に対してのイメージを変えるために必要であると考え、参加できることを幸せに思います。
- * 時間はかかりますが、一時も速く「女性」に特化(特別視)された女性の、が開催される必要性のない日本にして欲しいと思えます。本日の東北大からの教員の皆様の参加者が少ない点が気になりました。
- * 私の所属する歯学研究科においては、男女による差別やジェンダー問題は特にないという意識をしています。むしろ女性教員、女性臨床科に関しては多くの場で女性ならではの活躍をしていますので、よいロールモデルになっていると思えます。他学部での現状はSAの仲間から話を聞くことがありますが、そう悪くはないという印象を受けています。実際職員として働いている女性研究者から見ると多く問題があるのだと思いますが、今後の改善に対する駆動力が確かに起こっていると今日は感じました。
- * 男女の性差による感覚、認識、行動の違いがあります。若い学生あるいは職員達の意識の中に正確なこうした差の理解が出来ていない人が少なくないと思えます。その人達のためにどうやって理解してくれるかなどの教育を考えないといけな思えます。
- * SAとして、中学あるいは高校に出向いた時、女子学生だけでなく男子学生・教員にも話をきいていただくには出来ないでしょうか。意識の相違による問題によって女子学生が理系に進めない現状は男子学生・教員にも男女共同参画を知ってもらう事が必要だと思います。
- * 女性であることが研究を進めていく上でネックとならないような大学となっていたらいいと思えます。
- * 教員の削減が進んでいる中で、女性教員の割合を上げていくことは非常に難しいと思う。
- * 数値的な目標を掲げ、それを達成させるための取り組みに関しては、内容的な考慮が足りず、実現は難しいのではないかと。
- * サイエンス・エンジェルの一人一人を大事にしてください。
- * 女性理科系研究者が少ないことは高校教育における教師、学校、家庭の男女共同参画といわずともこれからの社会に女性の能力を活用することの大切さ、女性にパワーを与える環境に無関心すぎることもある。そこに連携し目を向けてもらいたい。
- * 女子学生の入学を許可した伝統をお持ちです。サイエンス・エンジェルの制度は年代の近い高校生によい影響を与えていると思えます。また彼女たちも頑張っていると思えます。
- * 大学の男女共同参画やサイエンス・エンジェルは理系に重点が置かれており、人文社会系については殆ど触られていない。人文社会系でも特に博士後期課程では女子学生は少なく、研究室によっては先生、助手、学生の中での女性比率が少ない問題を抱えている。そのような点で、理系だけでなく、文系も含めて分析される橋本先生のご研究は非常に興味深く成果報告が楽しみである。
- * 女子の大学進学率など共同参画の入り口は広がっていると思うが、その後、到達すべき場がないというのは女性研究者にとって深刻な状況である。教員の採用が任期制など流動的になっている現在では以前よりも女性研究者を増やすことは難しいように思う。しかし、女性が働きやすい環境は男性にとってもよい環境であると思うのでぜひ進めていただきたい。

- * 文理融合を謳いながら、理学には文系は科学的ではないなどの差別意識が根強い。社会人文学者の困難にも着目していただき、すくい上げてくださるとうれしい。定着もいいのではと思う。途中でリタイアした人も再チャレンジして社会に貢献できる。研究ポジション、就職先も欲しい。
- * 女性研究者が仕事を続け、家庭を持つことができるためには、やはり相手との同居が可能な環境で仕事を得られれば本当に心強いと思う。北大と熊本大の取組はそういったことをバックアップしていこうと言う非常に新しい動きで感動した。ただ、全国でたった二つの大学だけがこれを整えてもごく一部の女性研究者しか救われない。これを解決するためには、全国規模で同様の考えを持つ組織(大学以外の研究機関を含む)が協力し合い、"その地域"で研究職を求めている女性研究者に仕事が紹介できるようにはできないだろうか?と思いました。東北大でもこのような仕組みを整えていければと思う。
- * 評価システムにおいて、男女共同参画の視点が一層重視されることが望ましいと考えております。
- * 学部ごとに取り組みが異なるので、それぞれの学部がどのようなことをやっているのか、互いにPRし、またそれぞれの活動を利用可能にもらえるといいと思った。
- * ますます重要であり、部局・大学のみならず、家庭での教育が大切。特に男性の役割は重要です。
- * こういうシンポジウムがあると、必ず"女性だから"参加しなさい的な圧力がかかります。むしろ、一度も参加したことのない方々に順に半強制的に参加させるなどをして、まず男女共同参画の概念を広く啓蒙することにも力を入れた方がいいと思われまます。
- * 男女共同参画に反する制度や事例があった場合、それが行われている部局長に対し厳しく指導する仕組みが必要。いくつかのアンケートで問題点を指摘しているがそれらが改善されていると実感できない。